

京都エコ・エネルギー戦略推進会議(第2回) 結果概要について

1 日時：平成24年9月19日 10:00～12:00

2 場所：ホテルルビノ京都堀川 銀閣の間

3 議事概要

(1) 開会

(2) 議題(省エネについて)

○服部委員から今夏の京都産業界の節電取組状況及び技術開発の動向に関する報告

- この夏の京都の産業界の取り組みでは、大手を中心とした設備投資の実施による対策と、中小を中心とした我慢の節電のふたつがあった。前者の具体例は、インバータ型エアコンへの取り替えや、2重窓、自家発電、LED、省エネ蛍光灯等の導入によるkWhの削減、後者の具体例は、費用を掛けずに実施できるエアコン温度の設定やエレベーターの間引き運転、部分照明、製造工程の変更、時差出勤等によるピーク時のkWの削減である。
結果として、かなり大幅な省エネが達成された。
- ほとんどの企業が、節電は負担があったと回答する一方、計画停電を回避できたのは自分達の努力であったという前向きな評価もあった。企業負担は数百万円であり、特に中小企業への支援が課題である。
- 技術開発の面で、省エネはビジネスチャンスという声もあり、エネルギーマネジメントシステム等の開発やESCO事業の推進など、省エネに関わるビジネスが展開されている。これらビジネスをいかに広げていくかが課題である。

○村上委員から節電と省エネに関する報告

- 世界的にもスマートグリッドの流れがある。8000万の家庭へのスマートメーターの導入が急がれている。法改正があれば、早ければ2014年にはスマートメーターが入り込んでくる。まずは「見える化」。白物家電まで取り込んだ京都府のスマートマンションは全国でも進んだ取組である。
- 東日本大震災以前の電力システムは、使いたい放題であったが、原子力発電を基盤とした今までの安定供給体制が揺らぐ中、ピークカットによる節電と省エネの取り組みが急務である。国では、デマンドレスポンス(ネガワット取引)の検討により、BEMSの取り組みが進められている一方、HEMSはなかなか浸透していない状況である。
- 100万軒にスマートメーターを設置して1kWずつ節電すれば、原発1基分の電力を見なし発電したことになる。不要になった100万kW分の設備投資費用を原資に協力金を払う。

○木原委員による家庭の省エネに関する報告

- 機器更新や住宅新築、大規模リフォーム時における省エネ対策の実施が効果的である。
- 省エネ行動を促すには、例えば、省エネ住宅にすると健康面での改善が大きい、医療費が削減されるなど、安全・安心や快適に関わるメリットを併せて提案できることが重要である。
- ハードだけでなく、情報発信は大事であり、情報不足や勘違いが対策の足踏みにつながる。

○「省エネ」に関する各委員からの意見概要

- 今後、原子力を使いにくい状況となる中、ピークカットがコスト抑制につながるかどうか。需要をフラットにする目的は、ピークをカットしてベースを上げることだが、このベースはガス、石油で賄うことになりコストアップにもつながる。これは、短期的には「(kWが)足りない」ので必要だが、長期的にはよく考えないといけない。
- 府内で15万kW分のコージェネが導入されており、10%程度の省エネにつながっている。また、更に30万kW程度のポテンシャルがある。
- 省電力の議論に偏ることなく、有限の1次エネルギーをどうするかに関する議論が必要である。
- 意識改革と技術革新の両輪により、将来を見越して、社会システムの転換を考える必要がある。そのひとつの方向性として、再生可能エネルギーの活用が考えられる。
- 京都のエコ・エネルギー戦略なので、京都で何ができるか議論しないといけない。今何ができるかというリアリティのある議論を深めていければよい。
- 我々は、エネルギーだけをもとにして行動するのではなく、効用を得るために行動するため、効用を高めるサービスを提供する必要がある。そのためにはITはひとつのキーとなる。需要側が何を求めているのかを把握し、結果として省エネにつながればよい。

○植田座長とりまとめ

- 2030年を目標年次に想定しているが、国が電力システム改革を打ち出しており、仕組み自体がかなり変わる可能性がある。電源を選択できるなど、需要家の参加が強く打ち出されている。単純に現状を延長しての議論はできないところが難しい。
- また、システムそのものの変化と同時に、ITの利用など、インセンティブ設計も大きな問題である。また、情報の見える化も重要な要素である。
- 家庭での節電が伸びたことや、定着した節電の量など、今年の夏の節電をしっかりと検証していくことが重要。
- エコ・エネルギー戦略という限り、何らかの見通しが重要である。今年の夏の節電をきっちり検証・把握するとともに、電力だけではなく、熱に関する議論も含めて、定量的にリアリティのある議論を進める必要がある。

4 閉会